



# 心臓財団 季報

No.209

● 公益財団法人日本心臓財団 ●

〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 4階

○ Tel 03-3201-0810 ○ Fax 03-3213-3920 ○ e-mail:info@jhf.or.jp ○ http://www.jhf.or.jp/

December 10, 2012

## 第10回日本心臓財団・アステラス・ファイザー 「動脈硬化 Update」研究助成対象研究者決定

日本心臓財団では、動脈硬化研究の一層の進展と少壮研究者の育成に努めるうえで、動脈硬化領域における研究を行う40歳未満の研究者に対する助成を実施しています。今回第10回の本事業に51名の応募があり、次の5名が助成対象者に決定しました。9月1日に開催された研究発表会で5題のうち上位3題の発表があり、それをもとに最優秀研究1題、優秀研究2題が選考され、残り2題が奨励研究に決定しました。



### 選考委員 (敬称略)

委員長	横出 正之	京都大学医学部附属病院探索医療臨床部教授
委員	秋下 雅弘	東京大学大学院医学系研究科加齢医学准教授
(50音順)	石橋 俊	自治医科大学内分代謝学教授
	上田真喜子	大阪市立大学大学院医学研究科病理病態学教授
	酒井 寿郎	東京大学先端科学技術研究センター教授
	堀内 久徳	東北大学加齢医学研究所基礎加齢研究分野教授
	山下 静也	大阪大学医学部附属病院循環器内科病院教授
	横手幸太郎	千葉大学大学院医学研究院細胞治療内科学教授



## 研究助成対象研究者

(順不同、敬称略、金額単位：万円)

氏名	所属	金額
 <b>中司 敦子 (38歳)</b>	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学 客員研究員	200
<b>最優秀研究：Vaspin による動脈硬化抑制とその作用機序の解明</b> メタボリックシンドロームを基盤として、2型糖尿病、脂肪肝、脂質異常症、高血圧症、心筋梗塞、脳梗塞など生命予後を脅かす多くの疾患が世界的に急増しており、その対策を講じることは緊急の課題です。我々は、脂肪細胞から分泌される新規アディポカインである vaspin (バスピン) を発見し、肥満や糖尿病に対する改善効果を遺伝子改変マウスや培養細胞を用いて明らかにしました。さらに動脈硬化への治療効果も期待されますので、今後検討を進め、将来的な治療へと結びつけていきたいと思っております。		
 <b>藤生 克仁 (38歳)</b>	東京大学医学部附属病院循環器内科 特任助教	100
<b>優秀研究：心血管・腎・脳連関による心血管恒常性維持機構とその破綻としての動脈硬化進展・不安定化の検討</b> 心血管は他の臓器に血液を送り込むことで多臓器と連携しているだけでなく、多臓器から心血管も調節をうけており、その調節の破綻が病気の発症につながる近年考えられている。我々は、腎臓・脳・交感神経を介した心臓保護作用が存在し、標的分子として GM-CSF を同定しその破綻が心不全の発症につながることを同定した。本研究計画では、腎臓・脳・血管連携を介した血管保護メカニズムの同定と、血管疾患発症機序を検討する。		

増田 大作(37歳) 大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学 特任研究員

100


**優秀研究：カイロミクロンレムナントを定量的に評価する血清アポリポ蛋白 B-48 濃度測定系の開発とその臨床的有用性の包括的解析**

食後高脂血症は apoB-48 を核とするカイロミクロンレムナント (CM-R) の蓄積により発症し、動脈硬化性疾患の発症と相関する。我々が ELISA/CLEIA 測定系を開発した空腹時 apoB-48 濃度は食後高脂血症・頸動脈肥厚・狭心症罹患率と強く相関する。今回は様々な病態の患者で apoB-48 濃度と内皮機能・インスリン抵抗性・酸化ストレス等との相関や apoB-48 含有リポ蛋白の組成・生理活性を検討する。

今泉 聡(37歳) 福岡大学医学部分子循環器病治療学 助教

30


**奨励研究：新規アポ A-I 模倣ペプチド「FAMP」による新たな動脈硬化診断・治療法の確立**

現在、心血管病の治療としてスタチンによる LDL コレステロール低下療法が広く行われていますが、同療法による心血管イベント抑制効果は 30%に過ぎず、残余リスクに対してのアプローチが模索されています。その中で注目を集めているのが HDL コレステロールです。この研究では新しく合成したアポ蛋白 A-I 模倣ペプチドを使用し、治療薬としての開発だけでなく、動脈硬化分子イメージングに用いることにより動脈硬化診断薬としての開発も目指しています。

吉田 陽子(31歳) 千葉大学大学院医学研究院循環病態医科学 大学院生

30


**奨励研究：血管の老化における Notch シグナルの役割の解明と動脈硬化性疾患に対する新規治療法の開発**

これまで私は細胞レベルの老化が個体老化の一部の形質、特に病的な形質を担うという仮説に基づいて老化研究を行ってまいりました。特に最近 Notch シグナルが血管内皮の寿命を延長すること、またその分子機序を明らかにしました。これを動脈硬化性疾患に対する新たな治療ストラテジーとして発展させていけるよう、今回の助成を励みにしてより一層努力してまいりたいと思います。

## 第 17 回 日本心電学会学術奨励賞

平成 24 年 10 月 12 日～13 日、幕張メッセ国際会議場(千葉)にて、第 29 回日本心電学会学術集会(会長：中谷晴昭千葉大学薬理学教授)が開催され、期間中日本心臓財団が後援する第 17 回日本心電学会学術奨励賞の贈呈が行われました。

これは日本心電学会の会員であり、心電学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される 40 歳未満の研究者に贈られるものです。受賞者は以下のとおりでした。

- |          |       |                                 |
|----------|-------|---------------------------------|
| 受賞者：最優秀賞 | 吉田雅昭  | (山口大学大学院医学系研究科器官病態内科学)          |
| ◇        | 木村絃美  | (滋賀医科大学呼吸循環器内科)                 |
| 優秀賞      | 杉山洋樹  | (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科循環器内科)         |
| ◇        | 成瀬代士久 | (筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻循環器内科) |

## 「拡張型心筋症に対する心筋再生医療研究助成」の創設

平成 20 年に拡張型心筋症を患い心臓移植のためドイツに渡航したものの、移植手術を受けられずに帰国し、現在国内で治療中の福本穂香ちゃんを救う会」より、渡航時に集まった寄附金の残預金が、日本心臓財団をはじめ、4 団体に寄附されました。

当財団には、総額 31,923,948 円のご寄附をいただきました。当財団の活動を理解し、子どもの心臓病治療の発展および心臓突然死による不幸を少しでもなくすために役立ててほしいとのことでした。

当財団ではこうした心筋の再生医療研究を促進することが、拡張型心筋症の小児が心臓移植を待つことな

く治療できる方法の一つであると考え、「ほのかちゃん基金」を設立し、研究助成を実施し、来年度より公募いたします。

### 実施案

毎年総額 450 万円(150 万円を 3 件)を 6 年間実施。

全国の大学および研究機関から公募し、日本心臓財団が委嘱する審査委員会にて厳正な審査を行い、助成対象者を決定する。

研究成果(概要)を当財団ホームページに掲載。

## 第6回 日本心臓財団 Cardiac Rhythm Management 短期海外研修助成対象者決定 6名を選考

日本心臓財団では、わが国の循環器領域の臨床研究者が、欧州の基幹施設にて、電気生理学および関連分野において最先端の循環器臨床治療を経験することを目的とした短期海外研修助成を実施しています。

今回、不整脈および心不全等の植込み型デバイス療法に焦点をあてた Cardiac Rhythm Management 分野に従事する35歳から45歳までの研究者を対象に募集しましたところ、25名の応募があり、6名(五十音順・敬称略)が助成対象者に選ばれました。

9月16日～23日まで8日間、イタリアの Ospedale

Cisanello 病院 (ピサ)、Spedali Civili 病院 (ブレシア) での研修を実施し、下記の成果を得られたことを報告いたします。



委員長	下村 克朗	大阪回生病院顧問
委員	相澤 義房	立川メディカルセンター研究開発部長
(五十音順 敬称略)	大江 透	心臓病センター榊原病院研究部長
	中田八洲郎	前湘南東部クリニック院長

### 研修に参加して



**小田 登 (38歳) 広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学 (循環器病態内科学) 病院助教**

植込み型デバイス (ペースメーカー、植込み型除細動器など) の有用性は確立されており、本邦でも多くの患者さんに対して既に行われています。しかしながら体内へ人工物を入れる治療であるため、感染や破損などのリスクは常に考えておかなければならない問題です。今回の研修は、これまで本邦では一般的でなかったデバイスの抜去手術も数多く施行されている施設での研修でした。実際にデバイス植込みおよび抜去手術を見学させていただき、また著明な先生方の講義を聴講させていただいたことは、非常に大きな財産となりました。今後、本邦でもデバイス植込み患者さんは増加していくと予想され、デバイス抜去の必要性も高まると思われます。今回の研修で得たことを、今後の診療に生かせるように努力していきたいと思っております。



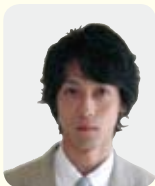
**佐々木真吾 (42歳) 弘前大学大学院医学研究科循環器呼吸器腎臓内科学准教授**

1週間という限られた時間でしたが国外 (イタリア) の循環器診療、特にデバイスに関連した日常診療を実際に体験することができ、大変、有意義な時間を過ごすことができました。現地の医師、スタッフには皆、親切に対応していただき、滞在中は臨床での診療にのみ集中できる貴重な時間となりました。また、同世代の同じ分野で活躍する全国の先生方と意見交換をする機会にも恵まれ、貴重な時間を共有できたことが最大の財産になるものと思います。



**高杉信寛 (36歳) 岐阜大学医学部附属病院第二内科医員**

非常に有意義な研修となった。日本よりも必ずしも優れているとは言えない設備 (特に血管造影装置) で、経験とテクニックを駆使して、イタリア全土から紹介されてくる難治例を含む莫大な症例数をこなしているのを目の当たりにし、感銘を受けた。またチーム医療が重要である事を再認識された。今回の貴重な経験を今後の日常診療の中で生かしていくことはもちろん、今回ご一緒させていただいた同世代の先生方と今後も情報を交換し合い、今後の日本の不整脈治療の発展に少しでも貢献できたらと考えている。



**福本耕太郎 (36歳) 慶應義塾大学医学部循環器内科助教**

日本国内では触れる機会の少ないリード抜去術を間近で見学し、手技の tips and tricks を同うことができたのは大きな収穫でした。ブレシアでの CRT 植込み手技は無駄がなく迅速でした。今回研修で得た知識、見学した手技手法を僕自身の診療に生かして行きたいと思っております。また、一緒に研修に参加した他院の先生方との交流も貴重な経験になりました。



**保坂 幸男 (41歳) 新潟市民病院循環器内科副部長**

リード抜去の卓越した施設にて研修させていただき、リード抜去手技における日本の遅れを強く実感するとともに、デバイス治療に携わる医師として、リード抜去手技の必要性を再認識する非常に良い機会をいただき、かつ、学ばせていただきました。今回、研修を共にできた先生方とともに、日本のデバイス治療の発展に少しでも寄与できばと考えております。サポートくださった方々に對して深く感謝するとともに、今後も多くの先生方が本研修に参加されることを期待しております。



**松本 克己 (41歳) 横浜市立大学附属病院循環器内科助教**

世界の高いレベルの手技を見学させて頂き、一つ一つが非常に刺激になりました。特に心臓植込み device 抜去という困難な手技をたやすくこなされていく姿に、感銘を受けました。現地の先生方・スタッフの方々に優しく対応して頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。ご一緒した先生方とも、多くも時間を共有することができました。これらの、貴重な機会を与えて頂き、ありがとうございました。今回得たことを今後に役立たせたいと思っております。

## 募集のお知らせ

### 第2回日本心臓財団・日循協・アストラゼネカ臨床疫学研究助成

日本心臓財団と日本循環器管理研究協議会（日循協）では、アストラゼネカ株式会社の協力を得て、循環器疾患の予防に関する臨床疫学研究助成を実施いたします。日循協では、助成対象者に対し必要に応じて研究アドバイザーを配置して、研究を支援します。

応募期間：平成24年12月1日～平成25年1月10日  
 ・対象分野および対象者  
 循環器疾患に対する一次～三次予防のいずれかを目的とした臨床疫学研究分野  
 医師・保健師・看護師・管理栄養士・栄養士・薬剤師

等医療関係に携わる者  
 ・対象となる研究  
 今後、応募者が主体となって調査・研究を行う臨床疫学研究であること  
 ・助成金 総額1,500万円  
 ・研究期間は3年以内で1件最大500万円とし、数件  
 ・応募資格、応募方法など詳しくは  
 募集要項：<http://www.jhf.or.jp/josei/jacd/index.html>  
 を参照のこと

### 第9回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成

日本心臓財団では、ノバルティスファーマ株式会社の協力のもと、循環器領域疾患の発症機転および治療について分子細胞生物学的研究を行う研究者に対して助成を実施しています。

・応募期間：平成24年12月1日～平成25年1月31日  
 ・助成対象  
 循環器領域における分子細胞生物学的研究の進歩に著

しい貢献が期待される研究者。  
 基礎あるいは臨床の別は問わない。  
 ・助成金 1件あたり100万円を10件  
 ・応募資格、応募方法など詳しくは  
 募集要項：<http://www.jhf.or.jp/josei/Novartis/index.html>  
 を参照のこと

## ご支援ありがとうございます

### 当財団へのご寄附

次の方からご寄附を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2012年9月～12月)

阿部 芳巳様	株式会社東横イン様
永原 大介様	吉田 加代子様
匿名10名様	

### 当財団をご支援くださる方

本年度もご支援をいただいた賛助会員の方のご芳名を記して感謝の意を表します。(順不同)  
 (2012年9月～12月)

栗原 敏様	小林 義典様
橋田内科クリニック様	澤田皮膚外科様
宮崎 治浪様	こやなぎ小児科様
寺内医院様	さくま内科胃腸科クリニック様
増田医院様	かさほら内科医院様
久保田 徹様	羽田 勝征様
堀越 裕一様	竹越医院様
三浦医院様	佐々木 進次郎様
橋本 敬太郎様	鄭 忠和様
林 輝美様	鍵山 俊太郎様
藤山 武史様	中村 裕一様
匿名7名様	

## ●心臓財団からのお願い●

### ～ご寄附ならびに賛助会ご加入～

当財団が循環器疾患の予防・制圧事業を展開するうえで、その多くは寄付金ならびに賛助会費により支えられております。あなたのまわりの方にもぜひ呼びかけてください。ご寄附はいくらでも受けさせていただいております。当財団は「公益財団法人」として認定を受けておりますので、税制上の優遇措置が講じられております。ご支援いただける場合は、下記の口座をご利用ください。

ゆうちょ銀行一般振替口座 00140-3-173597  
 宛て先 公益財団法人日本心臓財団

### 日本心臓財団新事務所の会議室をご利用ください。

医療関係者の皆さんが気軽に利用できるよう、日本心臓財団では、会議室を無料提供しています。詳細は事務局までお尋ねください。



#### 日本心臓財団事務局

東京都新宿区西新宿2-7-1  
 小田急第一生命ビル4階  
 電話：03-5324-0810



- ・JR「新宿駅」から徒歩10分
- ・東京メトロ丸ノ内線
- 「西新宿駅」から徒歩5分
- ・都営大江戸線「都庁前駅」
- A7出口から徒歩1分